令和４年度幕別町地球温暖化対策推進委員会
第２回審議会　議事録

【開催日時，場所，出席者】

日　時	2022年11月22日（火）14:00～15:30	会　場	幕別町会議室 3A～3C

委員長	梅津　一孝	○	委　員	佐藤　博志	○	事務局	佐々木　英行	○
委　員	岡坂　和春	○	委　員	長谷　陽子	○	事務局	古市　智也	○
委　員	太刀野　真	○	委　員	宇佐美　純一	○	委託会社	西田　功児	○
委　員	林　勝也	○	委　員	楠　美智子	○	委託会社	和田　昌大	○
委　員	伊藤　光一	○	委　員	西山　修一	○	委託会社	桑野　一彦	○
委　員	佐藤　一哉	○	委　員	山崎　和夫	○	委託会社	長谷川　啓一	○
委　員	刈谷　繁美	○	事務局	寺田　治	○	委託会社	大橋　正知	○
委　員	渡會　崇善	○	事務局	山岸　伸雄	○			
委　員	神山　央	○	事務局	井上　一成	○			

○：出席，×：欠席

【配付資料】

資料①：町民及び事業所アンケート集計（速報）について
資料②：温室効果ガス排出量と将来推計について
資料②：将来ビジョンの作成について
資料③・④：視察について
参考資料：町民アンケート集計結果（速報）
参考資料：事業所アンケート集計結果（速報）

【議事内容】

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 議案１　町民及び事業所アンケート集計（速報）結果の報告

町民および事業所に対して実施した脱炭素・再導入に関するアンケートの速報版の集計結果を報告した。アンケート集計結果については参考資料として配布しているため、後ほどご覧いただくようにお願いし、主な傾向について委託会社から説明を行った。

今回の報告は速報版であり、今後、詳細に分析を行い、温室効果ガスの将来推計や将来ビジョンの作成へ反映させる。

本議案については特段の意見はなかった。

4. 議案２　温室効果ガス排出量と将来推計についての報告

温室効果ガスの排出量および将来推計について、委託会社から説明を行った。将来推計については、CO2 削減目標をイメージするため、政府目標をクリアするシナリオ（シナリオ①）と、政府目標よりもやや高めの設定をしている北海道目標をクリアするシナリオ（シナリオ②）の２案の試算結果を報告した。

本議案については特段の意見はなかった。

5. 議案３　将来ビジョンの作成についての報告

将来ビジョンの作成について、その目的やコンセプト、施策の位置づけを委託会社から説明した。将来ビジョンは、地球環境のための脱炭素に関する側面と、地域活性化のための脱炭素に関する側面の両方を説明した。地域活性化のイメージ例として、バイオガスプラントを導入した場合について説明を行った。

＜本議案に対する意見＞

① 西山委員
- BDF(バイオディーゼル燃料)の使用について提案があった。
- 学校で子供たちが BDF を作る授業を実施しており、子供たちを巻き込む上では良いと思われる。
- 廃食油をエネルギーに変える取組みは、地域のみなさんに身近に感じてもらえる。
- エネルギー量としては少ないが、意識を高めるには有効と考えられる。

② 梅津委員長
- 京都では BDF をバスで運用している。
- BDF は寒冷地での利用に課題はあるが、軽油を混合し使用することも可能である。

③ 長谷委員
- 以前より幕別町では廃油の回収を実施しており、消費者協会が回収している。十勝バスの燃料として使われていたかと思う。

④ 佐藤(一)委員
- 北電としては、2030 年度に 50％削減、2050 年度にカーボンニュートラル達成を目標としている。また、泊原発が再稼働した場合、電気が余る予定である。その余剰電力で水素を作り、その水素を使って発電事業などを進める予定である。

⑤ 楠委員
- 町内の資源を使って、町内で消費する形が望ましい。

⑥ 岡坂委員
- 取組に対しては同意である。ただし、誰がどのように取り組むのか等、現実的な取り組みについて考える必要がある。

6. 議案４　視察について

先行事例として視察予定の鹿追町と上士幌町の再エネ導入の事例について、委託会社から説明を行った。どちらの町もバイオガスエネルギーを核としたエネルギーの地産地消に取り組まれている。

日程は 12 月 19 日で、幕別町役場を午前 9 時に出発する予定。午前中に上士幌町を視察し、午後から鹿追町を視察する予定である。

以上